

我が国の産業成長を支える銀行の在り方

2026年3月19日

中長期的な金融仲介の在り方検討WG
(事務局：一般社団法人 全国銀行協会)

1. はじめに

足元、趨勢的な人口減少や少子高齢化の進展、産業構造の転換やグローバル競争の激化、デジタル化（DX）やグリーン・トランスフォーメーション（GX）の潮流など、我が国や地域の経済、企業を取り巻く環境は大きく変化している。

こうした中で、日本経済が中長期的且つ持続的な成長を達成するためには、企業による大胆な成長投資を通じて、付加価値の追求や生産性の向上を図っていく必要があり、そのために様々なステークホルダーがそれぞれの立場で力を尽くしていくことが不可欠である。

従来より、銀行には、銀行法の第一条第一項に規定される通り、信用秩序の維持や預金者の保護、銀行業務の健全かつ適切な運営を期するという公共的な役割が期待されてきた。この点は安定した金融システムの根幹を担う銀行の存在意義として、今後も決して変わることはない重要な役割である。

こうした従来の役割に加えて、社会経済の環境変化の中で、銀行が企業の成長投資等を促す「成長投資の具体化機能」と、間接・直接金融の双方を織り交ぜた「資金供給機能」を、他の金融仲介プレイヤーとともに、これまで以上に主体的に発揮していくことが重要となる。

これまで預金取扱金融機関による資金供給が主体となってきた日本の金融仲介構造の中で、銀行界には豊富な人材や情報、顧客基盤、資金が蓄積されている。これまで培ってきたリソースと強みを最大限に活用して、銀行自身の経営・人材・リスクカルチャーの高度化に向けた取り組みも通じて、銀行が「成長投資の具体化」と「資金供給」機能をさまざまな形で発揮していくことが期待される。

本文書は、こうした銀行に期待される役割を明確化するとともに、ステークホルダーとも認識を共有し、銀行の存在意義に関するコンセンサスを形成していくことを目的に提言として取りまとめられたものである。

2. 銀行の今日的な存在意義

- 信用維持と預金者保護を確保し、社会・経済活動の根幹となるインフラ機能である銀行業務を健全かつ適切に運営することを通じて、国民経済の健全な発展を図ること。
- 事業性評価・目利き力を発揮し、企業の成長投資を後押しするとともに、成長分野に資金供給を行っていくことで、我が国企業・産業の競争力の強化や地域社会・経済の課題解決に貢献し、国民経済の成長を支える「要」の役割を果たすこと。

3. 果たしていく役割のオプション

経営基盤を置く地域社会や経済の構造、顧客の特性、自らの人材・ノウハウ等のリソース、現在強みを持つ／今後強みを発揮していきたいビジネス領域等を踏まえたうえで、「銀行の今日的な存在意義」に沿って、各行がそれぞれ自身の経営戦略や業務戦略を検討していくことが期待される。

以下、記載する「果たしていく役割のオプション」や「具体的な取り組み事例」は、あくまで例示である。どの項目を経営戦略や業務に取り込んでいくか、どのような形で盛り込むかは各行の経営判断であり、一様なビジネスモデルをめざすものではない。

(1) 成長投資の具体化機能

① 成長投資のアレンジ

- 銀行の人材・情報・顧客基盤を活用し、非金融事業も通じて、企業の成長投資をアレンジする。

(具体的な取り組み事例)

- ・ 銀行業で培ってきた人材や情報、顧客基盤等を最大限活用し、銀行自身による非金融事業も含むサービスの提供を通じて、企業の成長投資を具体化する

- ・ 政府や自治体、企業、他の金融機関など多様なステークホルダーとの連携を通じて、投資プロジェクト全体をアレンジする

② 企業へのエンゲージメントを通じた投資促進

- 企業との対話や経営戦略実現への伴走を通じて、競争力強化・経営の持続性の確保に資する企業の成長投資を促進するとともに、事業の再編・再生・承継を支援する。

(具体的な取り組み事例)

- ・ 企業の成長投資を喚起し、経営戦略策定支援やその具体化に向けて伴走する
- ・ 後継者不足や低成長の兆しを、予兆管理や対話を通じて捉え、事業承継や再編、再生を適切に促進する

(2) 資金供給機能

① 事業性評価・目利き力を活かした銀行によるリスクテイクを通じた支援

- 事業性評価・目利き力を高め、リスクプロファイリングを通じて、デット・メザニン・エクイティなどを活用したリスクテイクに取り組む。リスクテイクにあたっては投融資に係るリスクを理解し、それに見合ったリターンで資金供給を行う。

(具体的な取り組み事例)

- ・ 資金供給における銀行本来の役割であるデット（貸出）について、事業性評価・目利き力を発揮し、産業成長に資する支援を行う。リスクテイクの発揮にあたっては、担保・保証に過度に依存せず、企業価値担保権等も活用した事業性融資の促進に取り組む
- ・ 銀行に求められる健全性規制等の遵守を前提に、メザニンやエクイティ等を活用したリスクテイクにも取り組み、企業の成長を共に実現する

② 多様な担い手と連携した大規模な資金需要の支援

- 資金供給の担い手拡大、官民のリスクシェア等を通じ、大規模かつ多様な資金需要を支える。様々なリスクアペタイトを有する資金供給者のアレンジャーとしてファイナンスを組成する。

(具体的な取り組み事例)

- ・ 他の金融仲介プレイヤーとも連携し、発行体・投資家への働きかけを通じて社債を含む直接金融市場やローン等のセカンダリー市場活性化に努める
- ・ 官民での丁寧な議論を通じ、産業や事業毎の性質を踏まえた適切な官民のリスクシェアの下で必要な資金供給を行う
- ・ 異なるリスクアペタイトを有する様々な投資家、デットプロバイダーの間で資金供給者のアレンジャーとしての役割を発揮する

以 上